

日体魂

日本体育大学
東京都同窓会会報

第18号

平成28年3月1日発行
発行者 東京都同窓会長

高田 幸一

実践的指導力を有する
教員の養成に向けた
「日体教学舎」の
取り組み

日本体育大学
准教授 後藤 彰

目指す他の学生の良き模範者（リーダー）となることを目的としています。

このような取り組みを通して、教育者として望ましい人間性と子供たちの模範となる社会性、そして、百二十四年にわたって保健体育の教員を養成してきた本学ならではの理論と実践に基づいた専門性を身に付けた教員の養成を目指しています。

近年、新規採用教員には、今まで以上に即戦力としての実践的指導力が求められており、教員採用試験の勉強だけでは、教員に求められている資質能力が十分に身に付いていないのではないかと懸念がされています。

そこで日本体育大学では、平成二十七年五月に教員養成の新たな取り組みとして、「日体教学舎」を立ち上げました。

今年度は、公立学校の教諭を目指す十五名の学生が、小論文や面接の選考を経て一年間日体教学舎で学びました。前後期併せて二十八回の講義や演習等を行い、前期では、「いじめ」「不登校」「体罰」「情報モラル」「保護者対応」等の教育課題に対する理解とともに、ロールプレイなどを通して、具体的な対応の在り方について校種別に協議・発表し、その後、

講師の先生方から指導講評をいただくなどして実践的指導力を培ってきました。

また後期は、「体育」「保健」の指導方法の研究協議が中心となり、指導計画の作成とともに模擬授業を行いました。このような取り組みに対して、東京都同窓会をはじめ学校管理職等のご経験のある本学OB、OGの方々や各分野の専門家を講師としてお招きし、延べ十六名の先生方によるご指導を頂戴することができました。そして、その結果を平成二十八年一月八日(月)十八時から世田谷キャンパス記念講堂で発表することができました。

この発表に向けて、「日体教学舎」の学生たちは、二か月前から準備にかかり、二週間前からは毎日のように学生一人一人が主体的に集まり、自分たちが行う模擬授業の展開を熱く協議し、練習していました。しかし、最初のリハールでは、時間ばかりが過ぎて思うようなりハーサルができず、皆の中で大き

な不安感が湧き上がっていました。その後、リーダーを中心に一丸となって取り組む中で、一人一人が発表会を成功させるためには、何をどのようにしたらよいかと考え行動し、自分の意見をしっかりと述べるようになるなど、学生一人一人の取り組み姿勢が変化していきました。この体験は、教師を目指す学生にとって大きな成長と言えるかもしれません。

発表会では、このように成長した学生たちが、それぞれの持ち味を生かして学んだ成果を精一杯表現し、発表していました。発表会の冒頭のあいさつで学長から「創立百二十五周年の初めに本発表会が開催されることは大変意義深い。「日体教学舎」の成果も踏まえて四月から教職支援センターを設置する。また、受講者は学生の模範となるとともにより高い実践的指導力を身に付けてほしい。」とお話しをいただき、学生たちの心は高鳴っていきました。

発表内容は、「日体教学



舎一年の取り組み」、教育課題発表として、「子ども自尊感情と教育」「思考力・判断力・表現力の向上について」、そして、保健医療学部の福田先生と井之口先生を特別講師として招いた高等学校の保健「応急手当」、中学校体育の「体づくり運動(体ほぐし)」の模擬授業が行われました。その結果は、指導講評でおいでいただいた元東京都中学校校長会会長(現武蔵野大学教授)の堀米先生から賞賛をいただくとともに、「うまい授業」ではなくて「良い授業」を行ってほしい。授業の中で「認め合い」「励まし合い」「協力し合い」の三つの「合い」ある良い授業ができるように今後も研鑽してください」とのお言葉を頂戴しました。

いきました。この取り組みは、次年度以降も一層充実し継続して取り組んでいきます。これまでの関係者の皆様のご尽力に心から感謝申し上げますとともに、次年度も引き続きご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

教育支援委員会

平成二十八年年度

活動について

委員長 小橋川 和子

東京都同窓会の教育支援委員会の設立の趣旨を改めて述べると、東京都同窓会の諮問を受けて設立されたものであり、同窓会の事業の一環として活動するものです。業務内容としては、教育実習巡回指導の教育実習巡回指導担当特別講師(同窓会からの依頼による)と、教員採用試験一次対策講座(大学からの依頼による)のふたつの支援を重点的に行っています。今年度も教育支援委員会年三回、巡回指導担当

特別講師反省会を予定しています。平成二十八年度の教育実習巡回指導の特別講師の割り当てについては、昨年十二月三日に原案を作成し、十二月十八日に百九十八名の教育実習生に四十八名の特別講師で対応することになっています。担当する学生との、教育実習の事前指導が三月二十六日(土)世田谷キャンパスで予定されています。一人の講師が三名〜五名の学生を担当し、実習校へ二回から三回訪問指導することになっています。同窓の皆様の勤務校にお伺いすることもあるかと思いますが、要望をお寄せいただければ幸いです。

ホームページを活用しアウンズしているところです。なお今年度の新たな試みとして、世田谷校舎において教員採用試験の講座内容の説明を三月十二日(土)午後一時から二時まで行います。今年度の実施回数、五回です。前期・第一回四月十六日(土)、第二回四月二十三日(土)、第三回四月三十日(土)、後期・第一回六月十九日(日)、第二回六月二十六日(日)を予定しています。同窓の皆様の職場に、本学卒業の期限付き教員や非常勤講師の方がいらつしやいましたら是非ご紹介のうえ参加を促していたければ幸いです。

本講座を昨年受講された方の、平成二十七年東京都教員採用試験の一次合格は七名、最終合格者は四名でした。さらに、これを上回る結果を残したいと昨年度の受講者のアンケートを基に改善を図り準備して参りましたので、カリキュラムの一端をご紹介します。前期は、講演「東京都の教員になる」、教職教養問題の学習方法(個別に相談対応)について、過去問からの出題演習(一般教養問題、専門教養問題)の問題解説と学習方法について、論文作成のための学習方法(論文作成学習に一分間スピーチを導入)、論文添削指導については、評価票を活用し、振り返りを導入、受講者の姿が見える論文作成に力点を置き指導を図ってまいります。

前期最終日には、講演「合格への道」と題して、卒業生による講演を予定しております。また後期初日は、一般教養問題・専門教養問題の模擬試験。最終日は講演「東京都の教員になる」。演習の自己評価と他者評価を受験校種(小・中・高)、特別支援学校、養護教諭、中高保健体育科教師別の指導を行います。チーム日本体大として本学卒業の誇りを持った教師の育成と多くの後輩の輩出を念頭に置き、今年度も全力で指導に当たってまいりますので、同窓の皆様のご協力と応援をお願い申し上げます。

平成二十七年 度
教育実習巡回指導
反省協議会報告

広報委員会
山本 収太郎

○日時

平成二十七年

十一月七日(土)

午後二時～四時三十分

○開催場所

日体大深沢キャンパス
2503教室

○大学側出席者

教職担当・准教授

後藤 彰

キャリア支援課・事務長

大山 茂

キャリア支援課・事務

白田 周平

学務課

林 美佳子

○東京都同窓会出席者

会長 高田 幸一

副会長 竹内 定雄

副会長 大瀧 吉夫

副会長 角杉美恵子

教育支援委員会委員長

小橋川和子

他 教育支援委員

巡回指導特別講師

○協議内容

一・開会の辞 竹内 定雄

巡回指導は、平成十四年北海道で始まり、平成十八年東京都も大学の依頼を受け十年となりました。この反省会を活かして次年度に備えたい。

二・挨拶 高田 幸一

学生の意識、資質の差がある中、巡回指導いただき感謝しております。この反省会を次につなげていき、日体魂を持った後輩を輩出したい。

挨拶 後藤 彰

大学では、教員志望の学生の増加に対し都同窓会の教育実習巡回指導の重要性を認識しています。

学生は、部活動や企業体験、JICAの活動を通して教員志望の学生が増加しています。

教師としての望ましい人間性、子供の模範となる社会性、本学ならではの理論と実践に基づいた専門性を身に付けた教諭の養成を考え、平成二十七年から「日体教学舎」を立ち上げた。活動にご理解をいただきたい。

挨拶 小橋川 和子

教育支援は、巡回指導と教員採用試験対策がある。平成二十七年は百二十八校百九十四名の学生に、五十五名の巡回講師が対応した。平成二十八年度は百三十六校百九十八名に、四十八名の巡回講師をお願いしている。

三 反省協議

岡田前会長から①巡回指導の方向性を出すよう進めてもらいたい。②本協議会への参加率が下がっている。多くの講師で協議を行いたい。との要望あり。

☆今年度初めて担当した講師の報告と意見

高校四名・中学校一名を担当した。大学より発行されている『教育実習の手引き』に基づいた指導を行った。実習前に二回指導案作成の指導をした。高校の実習生は勤務先だったので、期間中指導ができた。中学校の学生は一回しか学校訪問をできなかった。

☆ 出席委員からの意見

巡回指導では指導方法や内容など共通にするところがあるのではないか。大学から派遣されている講

師という自覚をしたい。

教員志望とそうでない学生の実習中意識の差が大きい。

授業や部活動指導で安全管理に不安がある。実習校の指導教諭も気づかずにいる場合もあり、講師として実習生を指導した。

指導案の書き方を指導、往復はがきに心情を書いて送る、メールで連絡を取り合うなど、実習に入る前に講師を知ってもらい効果があった。

訪問指導は、一人三回三時間を目安という意見があった。三回は多いとの意見もあり、多くは研究授業を含め一・二回であった。

訪問先に一日いたので、学生や実習校の教員と話を深め、指導ができた。

研究授業で「保健」の授業を担当させない、保健の教科書を使わなくて良いと実習生に指導している学校があった。基礎・基本の指導で、指導者がプールに入らない事例もあった。

実習校での指導教諭の指導にどの程度立ち入れるか難しい。

↓(後藤准教授回答… 全国

で巡回指導を行っている

ので、一概にこのような対応でとお願いできない。)「教育実習日誌」の点検、

講師所見の記入、研究授業の感想、実習中に気付いたことを指導しながら、教員志望を継続させていくように指導をした。

事後指導では、大学で約一時間半程度指導した。実習日誌の所見の記入は、学生に日誌を郵送させた。あて名書きや封書に記入すべき事柄など、基本的なことを知らないことに驚かせられることがあった。

四 大学からの報告

日体教学舎について

後藤 彰 准教授

「日体教学舎」は教師を目指す若者に、より教育的実践力を高めるためのリーダーとなる人材づくりをしている。

一年間二十五回の講座を開く予定。いじめ・不登校・体罰・情報モラル・保護者対応等をテーマとしたロールプレイに取り組んでいる。二十回から二十回は模擬授業を予定している。来年一月十八日には前東京都中学校校長会

会長の堀米孝尚氏をお招きし、模擬授業発表会を行う。模擬授業の指導・助言の講師を都同窓会にお願ひしたい

教員採用選考結果報告

事務長 大山 茂

今年の全国の教員採用選考は、一次合格者七十六名、二次合格者二十七名で昨年から三名増えている。東京都は、二次合格者十名、期限付が八名で、合格者二名、期限付三名が増えている。既卒は除いている。事務局より

幹事長 関 毅彦

今回の協議会より、費用弁済として担当した学生一人に付き一千元と交通費二千元とした。十一月十一日の体育研究実演発表会について案内。

広報委員会委員長

角杉 美恵子

東京都同窓会広報誌第十七号「日体魂」十二月一日 発行予定です。

四 閉会の辞

山本 收太朗

次年度に向けて、継続性をもたせて教員志望の学生を支援していくことの決意表明で閉会の辞とした。

学生と同窓生のための同窓生による

平成29年度東京都教員採用候補者選考試験対策講座開催予定

講師	日本体育大学卒業で東京都公立学校管理職(校長・副校長)の経験者
講座	全5回
会場	日本体育大学 東京・世田谷キャンパス内 3202教室
開催日時	前期(3回)平成28年4月16・23・30日(土)、後期(2回)6月19・26日(日)
費用	1,000円(各回ごと)
主催	日本体育大学東京都同窓会教育支援委員会
共催	日本体育大学東京都保護者会
問合せ先	日本体育大学学生支援センター 日本体育大学東京都同窓会(担当:五石 090-4418-9181)

講座内容(平成28年度実施計画)

前期

- 第1回 受講と採用選考受験の基本的な準備、教養問題と論文問題の学習方法
講演「東京都の教員になる」 — 期待される教師像 —
- 第2回 一般・専門教養問題の演習、教養問題学習の進め方、論文問題の学習
1分間スピーチ、講演「合格への道」、論文添削
- 第3回 論文問題の演習、論文問題演習の振り返り、評価を活用した学習法

後期

- 第4回 一般・教養模擬問題による演習、論文(模擬)問題演習、受験校種別個別相談
- 第5回 講演「東京都の教員になる」 — 期待される教師像 —
論文(模擬)問題演習と添削指導、受験校種別個別相談

『個別の指導と相談』論文演習の添削指導を含み個人的なアドバイスや相談にのることができます。講義の時間は、各回ともに10:00から16:00(途中昼食休憩があります。)東京都以外の自治体を受験希望の方、他自治体の同窓生で東京都の採用試験を受験される方も参加可能です。(内容は、過去の東京都教員採用試験問題や講師が作成した模擬問題を実施いたします。)

編集後記

今号は後藤彰先生から「日体教学舎」のお話と、教育支援委員会のお話、教育実習巡回指導の反省協議会についてご報告致しました。

大学と連携し、多くの学生が教職の道に就けるよう、都同窓会のみなさまのご協力をお願い致します。

また、都同窓会の活動、会報第18号へのご意見やご感想、次号以降についてのご要望など、是非お聞かせください。